

中小企業発のEDI標準化

発注者ごとに異なるEDI仕様 利用者が業界標準企画し、普及へ動いた！

愛知県豊田市 こじま事業協同組合連合会

中小企業IT経営力大賞2009 中小企業団体中央会会長賞

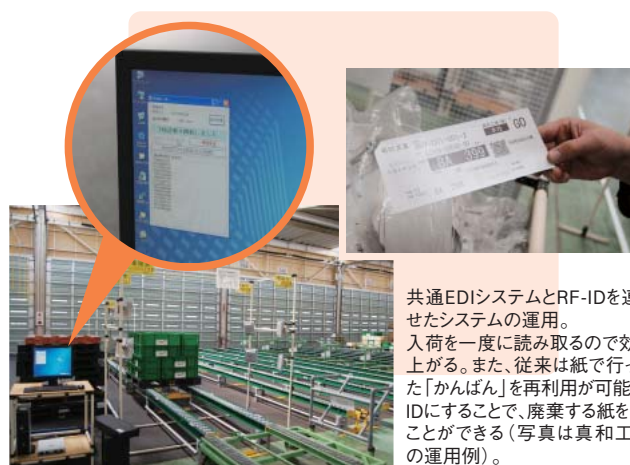


電子データを使った受発注システム（EDI）は、受発注業務の効率を上げ、データの有効活用を推進する。ところが、一次サプライヤーの大手企業各社は自社独自のEDIの仕組みを作り、2次、3次サプライヤー（いわゆる下請け企業）に利用を促してきた。

その結果、受け手側は取引先ごとのEDI方式に対応せざるを得ず、別の意味での負担が増え始めていた。そこに一石を投じ、業界に共通のEDI仕様を広げようと動き出しているのが、愛知県のこじま事業協同組合連合会である。

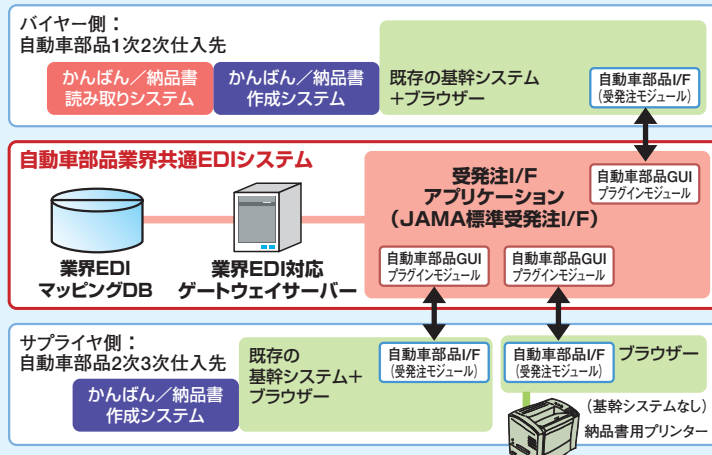
組合連携によって 大規模投資を実現

こじま事業協同組合連合会とは、小島プレス工業を親会社とするトヨタ系の自動車部品関連企業による2つの組合を起源とする。現



共通EDIシステムとRF-IDを連携させたシステムの運用。入荷を一度に読み取るので効率上がる。また、従来は紙で行っていた「かんばん」を再利用が可能なRF-IDにすることで、廃棄する紙をなくすることができる（写真は真和工業内の運用例）。

こじま事業協同組合連合会が構築した共通EDIシステム概要 （資料提供：こじま事業協同組合連合会）



EDI標準化に 施された工夫

Iを検討していました。しかし、会社ごとに仕様が異なるEDIへの対応は自動車部品業界全体の課題です。業界共通EDI基盤の必要性を強く感じました」（兼子氏）

活動推進にあたり、組合ではITコーディネータ（ITC）水口和美氏と秋山剛氏の協力を得た。まずは平成19年度の中小企業戦略的IT化促進事業に採択されたことを受け、共通XML/EDI実用化推進協議会（COXEC）の仕様が自動車部品業界で活用できるかどうかの実証実験を行った。ここで業界固有の項目に対応させる必要性が判明し、平成20年度の中小企業IT経営革新支援事業を使って業界標準EDI仕様の策定に取り組んだ。

今回の留意点は大きく2つある。まずは、ITC水口氏が「EDIを使っていても、受注側の企業はそのデータを自社の基幹システムに取り込むことをあまりお考えになっていません。それを自動化で

ターや社外へのネットワーク回線、ソフトウェアなどを組合側に集約。組合員は専用回線でアクセスして資源を利用する仕組みとした。情報化推進プロジェクト室長の兼子邦彦氏は、構築に際して考慮した点を次のように話す。

「不公平がないよう、システムは新規に作り直しました。また、組合員企業の規模は幅が広く、IT活用にも格差があります。組合が取りまとめることで、例えばバックアップやウイルスチェックの徹底など、利用レベルを同一水準に保てる効果もありました」

この取り組みで人事、給与、電子メールなど基本システムの統合が実現し、開発コスト削減をはじめ顕著な効果が出た。続いて2005年からは、取引先との受発注部分に目を向けたのだった。

「当初は組合員用のWeb型ED

サポーター紹介



ITコーディネータ
水口和美氏（写真左）
秋山剛氏（右）
株式会社ARU
<http://www.aruinc.jp/>

本事業では、水口氏がアドバイザー、秋山氏が評価・検証の責任者としてこじま事業協同組合連合会の標準仕様策定を支援している。

水口氏は、支援先企業が中小企業IT経営力大賞の優秀賞を2年連続受賞するなど、数々の実績を持つ。今回は、水口氏がEDI調査会の委員を務めておりEDI仕様策定に通じていたことも的確なサポートを展開する一因になった。

秋山氏は大手自動車部品メーカーに勤務していた経験を活かし、モノづくり企業の支援を得意とする。「受注側の企業は困っていても大手企業に何も言えないものですが、今回は皆さんの声の形になっていくことにやりがいを感じました」と話している。

組合の兼子氏は、「私はCIOの役割を担っていますが、コンピューター関係の話ができる相手はなかなかいません。ITCの方々は他業界の動向も含めいろいろなことを相談できる窓口だと思います」とITCを活用するメリットを指摘する。標準仕様の普及についても引き続き協力を得ていく予定とのことだ。

所属員の1社である真和工業では、本システムを先行して実験稼働。同社業務部長の木内俊仁氏によると「RFIDの利用によって入荷時の商品読み取りをまとめて行えるなど、作業もスピードアップできます」とのことだ。

現在、関連企業へ活用を呼びかけ、自動車工業会や自動車部品工業会にも提案を行っているところだが、水口氏は「これからが本当に大変な段階。戦略を持って普及に協力したい」と気を引き締める。中小企業を発信者としたEDI標準の普及に期待が集まっている。

組合の課題（ITに関する部分）

- IT投資の重複を防ぎたい
→ ITシステムの共同利用（ハード、ソフト、外部へのネットワークの一本化）
- 組合員内でWeb-EDIを構築したい
- 一次サプライヤーの個別対応の手間も何とかならないか
- 組合員がEDIデータを自社の基幹システムで活用できるようにならないか
- 小規模組合員のIT活用の課題を解決できないか

自動車部品業界共通のEDIシステムの実現を目指す

組合概要

こじま事業協同組合連合会

愛知県豊田市下市場町6-21

代表理事：小島洋一郎氏

設立：平成9年

組合員数：2組合

所属員数：16社

事業内容：組合員企業の施設運営（研究所）、情報化促進事業・教育情報事業・福利厚生事業の運営